

御参加ありがとうございました!

知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について、大変具体的に伺うことができ、参考になりました。何のために主体的・対話的で深い学びを行っているのか、目的を見失わないようにしなければならないと思います。



実践事例では、児童生徒とのやり取りや気付きを通して、授業を柔軟に改善工夫されていたのが勉強になりました。また、冊子はとても分かりやすくまとめてあり、今後の授業づくりに活用したいです。ありがとうございました。



「学びを深めるための7つのポイント」を分かりやすく提示していただき、どのように資質・能力を意識して、学びの場の質を高めていけばよいかよく分かりました。発表者の先生方と協力委員の先生方の対話の形でお伝えいただいたことも整理しやすかったと思います。発表者や協力委員の先生方、ありがとうございました。



通常の学級での単元構成を考える際でも、①～⑦のポイントを活用して取り組んでみたいと思いました。明示的なご発表だったので引き込まれました。ありがとうございました。

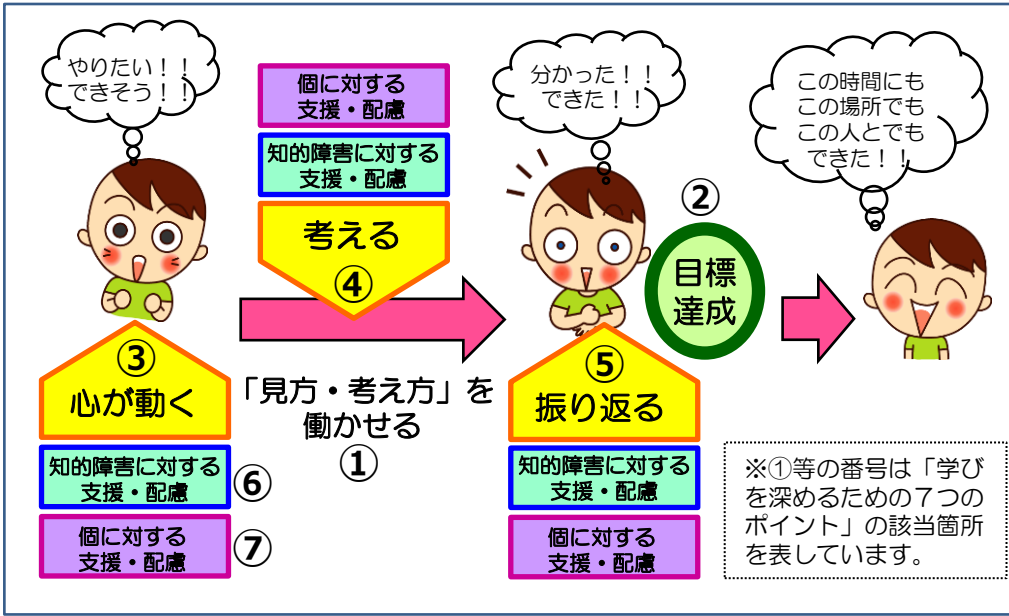
ひと月ほど前になりますが、2月16日(土)に岡山県総合教育センター教育研究発表大会を開催しました。特別支援教育部は「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びに関する研究」というテーマで、分科会発表を行いました。冒頭の感想は、私たちの分科会発表に参加してくださった方々からのものです。今回の研究では、目的の一つに、小学校・中学校・高等学校等でも示されている授業改善の視点である「主体的・対話的で深い学び」を、知的障害教育の授業において実現していくためのポイントを明らかにしていくことを挙げていました。様々な文献研究や授業実践等の検討を通して、明らかになった授業づくりのポイントは右の七つです。

学びを深めるための7つのポイント (単元構想)

- ① 教科等の「見方・考え方」を確認する
- ② 適切な目標を設定する
- ③ 心が動く工夫をする
- ④ 考える工夫をする
- ⑤ 振り返る工夫をする
- ⑥ 知的障害に対する支援・配慮をする
- ⑦ 個に対する支援・配慮をする

授業が受け身にならないためには、やってみたく「心が動く」ための動機付けや「考える」機会の設定が必要です。心を動かして、自分で考えて感じられた「できた、分かった」学びは、児童生徒の生きて働く力となります。そして、「できた、分かった」という自分の学びを「振り返る」ことも学びを深めるために必要です。また、各教科等の「目標」や「見方・考え方」を押し付けておくことも大切です。

この7つのポイントをイメージ化したのが、右の図です。詳細につきましては、ブックレットをご覧ください。ブックレットには、それらのポイントを位置付けた四つの授業実践事例も掲載しております。ぜひ、ご一読いただいて、日々の授業実践につないでいただけたら幸いです。



「見方・考え方」を働かせる

右の絵は、赤と青のカップを見ながら、4人の子どもたちが考えを巡らしている場面です。

Aさんは、コップの容積という算数的な見方・考え方。Bさんは、色の美しさという図工的な見方・考え方。Cさんは耐熱性という理科学的な見方・考え方。Dさんは、英語に置き換えるという外国語的な見方・考え方を働かせていると考えることができます。ある事象や出来事に遭遇したときに、その場面に最もふさわしい見方・考え方をを用いながら、その事象を捉えたり、課題の解決に向けて判断したりする力が必要とされています。また、場面によっては、それらの見方・考え方を複合的に働かせ、柔軟に対応していくことも求められています。そのためには、それら個々の「見方・考え方」の精度を高めていくための場が必要です。これが各教科別の学習です。その教科の学習において、その教科ならではの「見方・考え方」の精度をより高め、しっかりと働かせる経験を積み重ねていくことになります。また、場面に応じて、それらの「見方・考え方」を自在に働かせる場も必要です。それが、小学校等であれば、例えば、総合的な学習の時間であったり、知的障害教育では、例えば、各教科等を合わせた指導であったりするのだと思います。



今回の研究でも、保健体育科のキックベースを扱った事例の中で、子どもたちの友達への応援の声が「頑張れ!」「いいぞ!」から、「空いているところをねらって!」などの体育の見方・考え方を働かせたものに変容していく様子が掲載されています。ぜひ、ご一読いただき、感想など、お寄せいただけたらありがたいです。